プラン概要書（様式第２号）

小浜の魚と雪室で仕込む、究極の“地魚熟成”プロジェクト　in小浜市上根来（かみねごり）
～無住集落の持続的活用と小浜の魚のPRに向けて～

グループ名：若狭雪室熟成プロジェクトチーム

プランの内容

【地域課題】

1. 上根来地区では、地元住民が主体となって伝統的な雪室を製作・維持し、その文化を守り続けている。しかし、維持管理はボランティアに依存しており、担い手不足や資金面の課題から継続が難しくなっている。
2. 全国各地の鮮魚が流通する現在、「御食国」としてかつて上等品であった小浜の魚の価値が薄れてきている。鯖街道が持つ「熟成」の意味を復活させ、小浜の魚に付加価値をつけることが求められている。

【プラン目的】

本企画では、小浜の山、海、大学がそれぞれの強みを生かし連携することで地域課題を解決し、小浜の魚と山のPRをすることで新たな価値を生み出すことを目的とする。

【プラン概要】

1. 冬季に、小浜の魚を雪室で熟成させる実証実験を行い、熟成技術を確立し、ブランド化する。→「雪蔵熟成魚（仮称）」
2. 地元の料理人とを連携し市内で試食会を開催する。
3. 次年度以降の活動維持のため、次年度以降の活用方法を検討する
4. 活動内容をSNSで発信し、広報活動を行う。







【持続性】

初年度は試食会によって活動費の一部をまかない、２年目以降はイベント等での販売や飲食店との共同販売（メニュー提供を含む）を視野に入れ、継続的に活動費をまかなえる体制をととのえる。

１年目事業予算

収入

項目	金額
支援金	500,000
試食会売上	30,000
合　計	530,000

支出

項目	金額
会場使用料	50,000
雪室使用料	30,000
材料費	150,000
資材費	50,000
衛生検査費	50,000
謝金	70,000
印刷・広報費	80,000
輸送交通費	50,000
合　計	530,000

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】

・有料試食会(20人、1,500円/人）での売上¥30,000を、雪室を製作する有志団体「百里会」に雪室使用料として支払い、持続的な活動を支援する。

・市内飲食店等と雪蔵熟成魚の共同販売を企画する

【定性的な効果】

雪室の持続的な活用により集落の関係人口を拡大し、担い手を創出するほか、熟成魚のブランド化によって小浜の新たな観光資源を創出する

プラン概要書（様式第２号）

プラン名：わけてエコ～楽しんで学んで未来につなぐゴミ分別～

グループ名：みらいエコ

プランの内容

【地域課題】
私たちの地域でも、資源ゴミが燃えるゴミに混ざってしまうという課題がある。私たち自身も、小さい頃はどのゴミがどの分別に当たるのか分からず、迷ってしまった経験がある。この経験から、お箸の持ち方を教えてもらったように、子どもの頃から楽しく正しい分別を学べる機会が必要だと考えた。

【プラン目的】
私たちが目指すのは、「楽しい」を入り口に、正しい分別を当たり前にすること。寸劇とクイズで、子どもの頃から分別を楽しく学べる機会をつくり、分別への意識向上とゴミの減量・資源の有効活用を進める。子どもの学びが家庭や地域へ広がり、きれいで住みやすい福井の街づくりにつなげたい。

【プラン概要】
保育園・幼稚園へ出向き、5分の寸劇とクイズ・カードゲームを組み合わせた「ゴミ分別の出前授業」を、訪問先を増やしながら年4回（6月・9月・12月・2月）実施する。分別を間違える悪役と、4人のヒーロー（もえるんちゃん・もえん君・りさいくるん・ぷらっち）の物語を通して、園児が体験的に分別を学ぶ。内容は福井県のゴミ分別カレンダーに準拠し、教材づくりから当日運営まで高校生が担う。園での実践をもとに、回ごとに教材を改善していく。

【持続性】
教材（寸劇・クイズ・カード・衣装）は毎年繰り返し使えるため、低コストで続けられる。2年目以降は支援金に頼らず、前年度繰越金・クラウドファンディング・企業の皆さまからの協賛金、募金活動等で運営する。学校祭でゴミ分別企画を行い、後輩へ引き継ぐ

１年目事業予算

収入

項目	金額
支援金	500,000
合　計	500,000

支出

項目	金額
教材･衣装費	120,000
講師費用	100,000
広報費	10,000
交通費	70,000
2年目活動費	200,000
合　　計	500,000

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】
出前授業の実施：年4回（4～8園）
●延べ参加園児数：120名
●教材一式（寸劇台本・クイズ・カードゲーム、キャラクター6体の完成
●学校祭でのゴミ分別企画：1回

【定性的な効果】
●園児が「楽しい」を入り口に分別を自分ごととして理解し、学びが家庭・地域へ広がる
●資源ゴミの燃えるゴミへの混入が減り、ゴミ減量と資源有効活用が進む
●高校生が地域課題に主体的に取り組み、調査力・企画力・伝える力が育つ
●高校生・園・保護者・地域がつながり、福井にゴミ分別文化が根づく

プラン概要書（様式第２号）

プラン名::棚田無農薬米作りで地域を活性化

グループ名：高須城山･農と人の会

プランの内容

【地域課題】

高須町は福井市街地より北西23kmに位置する海抜200m位の山間部にあり、南北朝ころからの歴史のある438mの高須山の麓で豊かな自然に囲まれた30戸ほどの集落で過疎化が著しい。
この地で耕作放棄田を活用し、平成14年から過疎化する町内の活性化を目指し、米作りを通した市民との棚田オーナー事業を自治会として始める。平成26年からは自治会から「高須城山･農と人の会」を立ち上げ、その事業を引き継ぎ、現在に至る。有機肥料･減農薬で始めた事業であるが、事業継続の為には新しい取り組みが求められてきている。

【プラン目的】

有機栽培（有機肥料･減農薬）で始めた米作りであるが、高須町の棚田が有機無農薬米栽培にパーフェクトな環境に囲まれていることに着目し、更にステップアップした有機無農薬米栽培に挑戦し、山間部の棚田での独自の栽培法を参加オーナーと一緒に試行錯誤しながら、3年後を目指し、確立する。

【プラン概要】

･無農薬栽培の技法を進化し、雑草抑制、増収を図り、地域に有機無農薬栽培を広めていく。
･米作りの事業をメインした様々な企画のセットにしたイベントを開催し、地域にPRしていく。
･こうした事業を通して交流･関係人口を更に増やしていき、過疎化を少しでも食い止めていく。

【持続性】

採択金については、主に除草ロボット購入、棚田の魅力を発信するために立ち上げているHPの定点カメラの買換等に充てる。
以降の運営費はオーナー会費/米販売費の増加、地域事業参加交付金等で賄っていく。

１年目事業予算

１年目の収支を記載すること。

収入

項目	金額
支援金	500,000
会費（14組）	420,000
合　計	920,000

支出

項目	金額
種苗費	80,000
肥料等	120,000
燃料･資材	50,000
獣害対策費	100,000
除草ロボット･定点カメラ	450,000
農機具費	120,000
合　計	920,000

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】

田植え、除草･交流会、稲刈り、収穫祭等の年5回以上の作業で10名×6回＝60名、イベントで30名×5回＝150名、合計210名若しくはそれ以上の交流、関係人口を創出していく。

【定性的な効果】

移住はハードルが高いが、棚田オーナーで有機無農薬米栽培の新たな取り組みで、棚田オーナー等の交流者、地元の住民農家が米だけでなく野菜作りでも有機農業の価値を認識し、高須町への愛着が強まり、過疎化を食い止めていくことに繋がる。

プラン概要書（様式第２号）

プラン名:わかさフォーク村

グループ名：わかさフォーク村

プランの内容

【地域課題】
高齢化及び過疎化が進む嶺南地区、特に敦賀を除いた若狭地区において、高齢者の孤立、文化芸術を担う人材の不足、若年層の流出が課題となっている。

【プラン目的】
定期的な音楽イベントを創出し、積極的な社会との関わり、地域における役割創出を目指し、さらには世代を超えた交流の機会を作ることで課題解決へ繋げていく。

【プラン概要】
実施概要：定期的な音楽イベントの開催
　　初年度は公共の場でのオープンステージを中心に開催、
　　次年度からは地域でのオープンマイクを中心に開催。
開催時期：令和9年4月～11月　各月1回の計8回
（※降雪の時期を避けるため12月～3月の期間は開催見送り）
対象地域：若狭地域の1市４町
（※嶺南地域のうち敦賀市においては既存の取組あり。）
対象者層：60～80代、10～30代
（※メインターゲット層は高齢者。そこから若年層へと波及。）

【持続性】
イベント開催において足かせとなりやすい機材及びオペレータ費用を節約するべく、支援金を用いて機材購入。
さらに2年目からは費用を抑えたオープンマイクイベントの開催へとシフトすることで、低予算で持続できる環境を作る。

１年目事業予算

１年目の収支を記載すること。

収入

項目	金額
支援金	500,000
雑収入	100,000
合　計	600,000

雑収入項目想定
・会場募金、投げ銭
・オープンマイク会費
・協賛金等

支出

項目	金額
機材費	470,000
会場費	50,000
広告費	50,000
雑費等	30,000
合　計	600,000

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】
年間8回の参加型音楽イベントを開催することで、
1回あたり50名程度(出演者15組、観客30名程度)、
延べ400名以上の交流機会を創出する。
※定期開催を行うことで認知が進み、回あたりの観客数は雪だるま式に徐々に増大していく見込み。

【定性的な効果】
フォーク世代(高齢者)から若年層にわたる交流機会の創出。
懐かしい歌を聴きにいくことから「外に出る理由」を生み出し、懐かしい話題で「地域との交流」を生み出し、居場所を作ることで世代を超えた交流を生み出していく。